

2019 年度  
**事業計画書**

自：2019 年 4 月 1 日

至：2020 年 3 月 31 日

**公益財団法人古河記念基金**

東京都千代田区丸の内二丁目 2 番 3 号

丸の内仲通りビル（古河三水会内）

## I. 総括的な方針

当基金は、1965年(昭和40年)11月に財団法人として設立され、以来古河系主要各社の支援と協力により基本財産の拡充が図られ今日に至っている。

2011年(平成23年)11月には法律改正に伴う公益財団法人への移行認定を受け、同月に公益財団法人への変更登記をした。

事業としては、従来同様育英事業(奨学金、研究助成)を行う。

奨学金事業として、理工科系専攻の日本人学生および外国人留学生に対する奨学金給付を行う。対象者は、学業および人物ともに優秀かつ健康であるが学資の支弁が困難と認められる者とする。

また、研究助成事業として、理工科に関する研究機関及び研究者に対し研究費助成を行う。

## II. 奨学金事業

2019年度から日本人学生に対する奨学金の区分のうち一部について月額を増額し、2019年度は外国人留学生を含めて奨学生54名、奨学金給付額24,120千円とする。2018年度実績見込みと比較すると、人数で▲3.2名減、金額は1,415千円増となる。増加分は諸費用の削減、寄付金募集の注力で対応する。

なお2018年度は、計画57名(指定大学推薦11名、インターネット募集46名)で、採用も同数の57名であったが、2018年2月に博士課程修了まで2か月を残し病気休学、支給停止に入った1名が9月に復学して残りの奨学金の支給を完了し、年度末で57名となる。

一方、当基金の経常収益は基本財産運用益と寄付金により賄われており、現状の水準は概ね25～26百万円程度であり、この水準に見合う奨学金支給人数は、55名前後である。

2018年度のアンケートによれば、10月現在の対象者58名のうち、2019年3月の卒業・支給期間満了予定者は19名であり、残り39名(うち、外国人留学生2名)が2019年度も支給継続を希望している。

2019年度の新規採用者については、日本人学生に対する奨学金月額の一部増額に伴い人数調整を行うが、日本人学生として50名は維持すべく、指定大学推薦日本人枠3名の外、インターネット募集で10名の採用を計画した。指定大学推薦外国人留学生は例年通り2名とする。

## 1. 指定大学推薦による奨学金給付事業

指定 5 大学(東京大学、東京工業大学、横浜国立大学、早稲田大学、慶應義塾大学)の理工科系専攻の学生で、学業および人物ともに優秀かつ健康であるが学資の支弁が困難と認められる者で、各大学の推薦を受けた者を対象とする。

### 1. 1 日本人学生

指定国立 3 大学(東京大学、東京工業大学、横浜国立大学)に対し学部 2 年生以上を各 1 名、合計 3 名の新規推薦を依頼する。継続 6 名と合わせ、9 名に対し給付を行う。

#### ● 支給月額および支給期間

	支給月額		支給期間
	2019 年度	2018 年度	
自宅通学者	30,000 円	30,000 円	正規の最短修業期間で 最長 6 年間
自宅外通学者	35,000 円	30,000 円	

### 1. 2 外国人留学生

指定 5 大学の理工科系専攻の学部 3 年生以上または大学院の学生を対象とするが、奨学金総支給額を抑えるため、2013 年度(平成 25 年度)から新規推薦依頼を早稲田大学、慶應義塾大学の 2 大学に各 1 名としており、2019 年度の新規推薦依頼も同様とする。

2018 年 10 月現在の奨学生 3 名のうち 1 名は 2019 年 3 月末で支給期間満了となる。

#### ● 支給月額および支給期間

支給月額	支給期間
80,000 円	正規の最短修業期間で 最長 2 年間

※支給月額の変更はない

## 2. インターネット募集による奨学金給付事業

日本の 4 年制大学の理工科系専攻の学部 2 年生以上および大学院に在籍する日本人学生で、学業および人物ともに優秀かつ健康であるが学資の支弁が困難と認められる者を対象とする。なお、金属その他資源関係専攻の学生を優先する。

2016 年度の募集から、インターネットの「一般法人・公益法人等情報公開共同サイト」に募集要項を掲示し、広く一般から募集している。

新規採用者は 10 名とし、継続 31 名と合わせ、41 名に対し給付を行う。

● 支給月額および支給期間

	支給月額		支給期間
	2019年度	2018年度	
国、公立在学者で自宅通学者	30,000円	30,000円	正規の最短修業期間で 最長6年間
国、公立在学者で自宅外通学者	35,000円	30,000円	
私立在学者で自宅通学者	35,000円	30,000円	
私立在学者で自宅外通学者	40,000円	35,000円	

3. 奨学金給付事業別の支給計画明細表

(単位:人、千円)

区分				2018年度実績見込み			2019年度計画			対前年度比	
				月額	人数	金額	月額	人数	金額	人数	金額
指定大学 推薦	日本人	新規	自宅	30	1	360	30	1	360	0	0
			自宅外	30	2	720	35	2	840	0	120
		継続	自宅	30	1	360	30	2	720	1	360
			自宅外	30	注a 4.2	1,500	35	4	1,680	▲ 0.2	180
		日本人計				8.2	2,940		9	3,600	0.8
	外国人	新規	80	2	1,920	80	2	1,920	0	0	
		継続	80	1	960	80	2	1,920	1	960	
		外国人計		3	2,880		4	3,840	1	960	
	大学推薦計				11.2	5,820		13	7,440	1.8	1,620
	インター ネット 募集	新規	国、公立	自宅	30	5	1,800	30	3	1,080	▲ 2
自宅外				30	8	2,880	35	3	1,260	▲ 5	▲ 1,620
私立			自宅	30	3	1,080	35	3	1,260	0	180
			自宅外	35	2	840	40	1	480	▲ 1	▲ 360
新規計				18	6,600		10	4,080	▲ 8	▲ 2,520	
継続		国、公立	自宅	30	6	2,160	30	10	3,600	4	1,440
			自宅外	30	9	3,240	35	10	4,200	1	960
		私立	自宅	30	注b 9.6	3,450	35	8	3,360	▲ 1.6	▲ 90
			自宅外	35	注b 3.4	1,435	40	3	1,440	▲ 0.4	5
		継続計				28	10,285		31	12,600	3
インターネット募集計				46	16,885		41	16,680	▲ 5	▲ 205	
合計				57.2	22,705		54	24,120	▲ 3.2	1,415	

注 a : 2018年2月に博士課程修了まで2か月を残し病気休学、支給停止に入った1名が9月に復学し、残りの奨学金6万円の支給を完了した。(2か月支給により、0.2名としてカウント)

注 b : 1名が9月に自宅外から自宅に変更。4~8月の5ヶ月は月35千円、9月以降は月30千円支給。

注 : 2019年度計画の新規の自宅/自宅外の人数比は、継続の自宅/自宅外の人数比をもとに想定した。

#### 4. その他付随行事

奨学金給付事業に付随して、以下の行事を行う。

##### 4. 1 奨学金支給決定書交付会

2019年6月に開催する。

##### 4. 2 交流誌の発行

2019年9月に第31号、12月に第32号を発行する。

##### 4. 3 奨学生工場見学会

2019年8月に実施する。

### Ⅲ. 研究助成事業

2020年2月に、研究費助成として以下のとおり支給する。

早稲田大学 理工学術院 500千円(1名)

慶應義塾大学 理工学部 500千円(1名)

早稲田大学は2017年度(2018年2月)までは100千円×5名であったが2018年度(2019年2月)から500千円×1名に変更した。

### Ⅳ. その他事業 (その他当基金の目的を達成するために必要な事業について)

2019年度も、前記の育英事業を重点的に推進するため、その他事業については計画していない。

以上

# 2019年度 収 支 予 算 書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

公益財団法人古河記念基金

(単位:円)

科 目	2019年度(予算)				2018年度 (予算)	2018年度 予算比増減	備 考
	公 1	公 2	法人会計	合 計			
	奨学金事業 A	研究助成事業 B	C	D=A+B+C			
E	D-E						
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用益	6,170,172	276,276	2,762,764	9,209,212	9,322,120	▲ 112,908	償還・買換え ⇒金利低下
基本財産受取利息	6,170,172	276,276	2,762,764	9,209,212	9,322,120	▲ 112,908	
受取寄付金	15,344,000	56,000	1,000,000	16,400,000	16,000,000	400,000	
受取寄付金(三水会)	14,000,000	0	1,000,000	15,000,000	15,000,000	0	
受取寄付金(個人等)	1,344,000	56,000		1,400,000	1,000,000	400,000	
雑収益	198	24	19	241	241	0	
受取利息	198	24	19	241	241	0	
その他収益	0	0	0	0	0	0	
経常収益計	21,514,370	332,300	3,762,783	25,609,453	25,322,361	287,092	
(2) 経常費用							
事業費	25,688,396	1,150,316	0	26,838,712	25,602,312	1,236,400	月額一部増  内製化
役員報酬(選考委員会)	103,156	103,156	0	206,312	206,312	0	
支払奨学金給付金	24,120,000			24,120,000	22,740,000	1,380,000	
支払研究助成金		1,000,000		1,000,000	1,000,000	0	
交流誌発行費	10,000			10,000	250,000	▲ 240,000	
奨学生工場見学会費	560,000			560,000	560,000	0	
奨学金交付会費	342,000			342,000	400,000	▲ 58,000	
会議費	198,000	22,000		220,000	76,000	144,000	
旅費交通費	2,250	250		2,500	2,500	0	
通信運搬費	56,700	6,300		63,000	70,000	▲ 7,000	
消耗品費	30,150	3,350		33,500	37,500	▲ 4,000	
雑費	266,140	15,260		281,400	260,000	21,400	
管理費	0	0	663,912	663,912	652,312	11,600	
役員報酬(評議員会)			206,312	206,312	206,312	0	
会議費			220,000	220,000	76,000	144,000	
旅費交通費			2,500	2,500	2,500	0	
通信運搬費			63,000	63,000	70,000	▲ 7,000	
消耗品費			33,500	33,500	37,500	▲ 4,000	
雑費			138,600	138,600	260,000	▲ 121,400	
経常費用計	25,688,396	1,150,316	663,912	27,502,624	26,254,624	1,248,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 4,174,026	▲ 818,016	3,098,871	▲ 1,893,171	▲ 932,263	▲ 960,908	
基本財産評価損益等				0	0	0	
特定資産評価損益等				0	0	0	
投資有価証券評価損益等				0	0	0	
評価損益等計				0	0	0	
当期経常増減額				▲ 1,893,171	▲ 932,263	▲ 960,908	
2. 経常外増減の部					0		
(1) 経常外収益				0	0	0	
(2) 経常外費用				0	0	0	
当期経常外増減額				0	0	0	
当期一般正味財産増減額				▲ 1,893,171	▲ 932,263	▲ 960,908	
II 指定正味財産増減の部					0		
受取寄付金				0	0	0	